

414
A2574



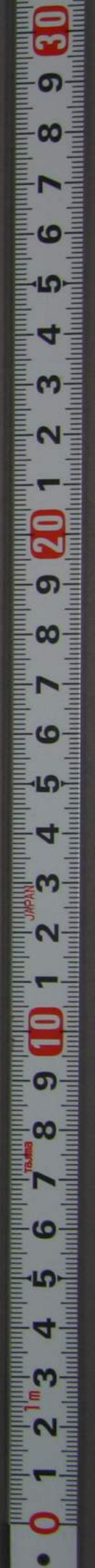
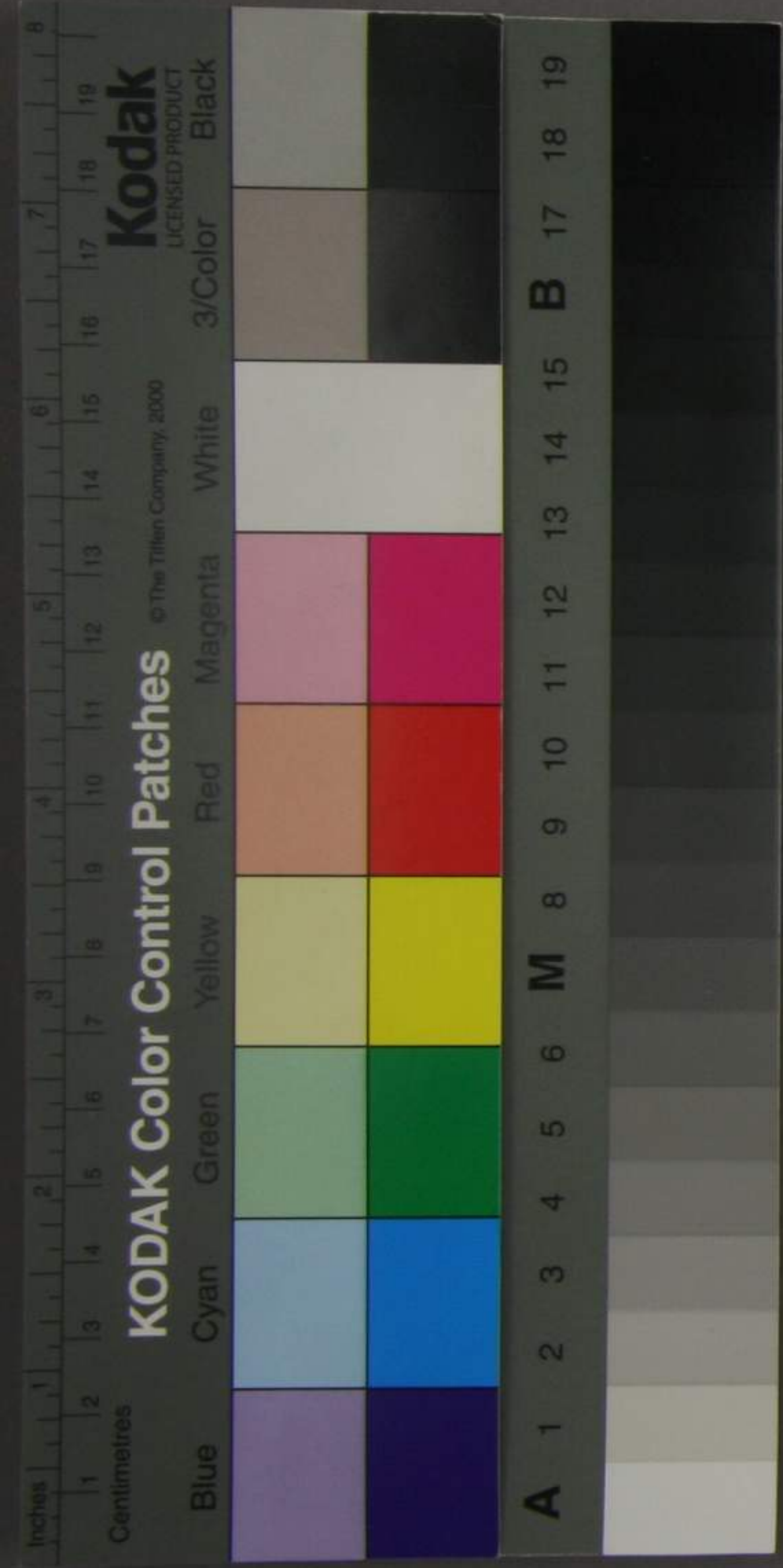
注制局参事官小池靖一

大正十一年四月
限便爵郵寄贈

臺灣ハ清國ヨリ割其シ我帝國ノ一部トナリ
タルカ为メ我帝國憲法ハ當然於臺灣ニ行ハ
ルモノナルヤ否ヤハ臺灣統治ノ上ニ於テ重大ノ
問題ナリ其決定如何ニ由リ將來該島施政
ノ上ニ影響スル所尤モ深且大ナルヘシ今之ヲ
攻究セントスルトキハ先ツ土地割其ノ果シテ
何タルヲ明ニセカルヘカラサルナリ

馬關條約第二條ニ云ク

清國ハ左記ノ土地ノ主權並ニ該地方ニ在



顧慮スルヲ要セズ唯施治宜キヲ得ルヤ如何ヲ
視ルヘキノミ

清國ノ臺灣ヲ我ニ割典スルヤ其主權ヲ以テシ
タルハ馬關條約ニ於テ明記スル所ナリ故ニ今日
我ノ臺灣ヲ統治スルハ我國有ノ主權ヲ擴充
シテ以テ其臺灣ニ施及スルニ非ズ實ニ清國ヨリ
得タル所ノ主權ヲ運用シテ之ヲ統治スルニ過キ
カルナリ是ヲ以テ其統治ノ方法我國有ノ版圖
ト之ヲ同ウスルト吾トハ唯我ノ時宜如何ヲ視テ定
ムル所ニ存スヘキノミ

臺灣ハ我帝國ノ一部トナルヲ以テ我帝國憲法
ハ當然臺灣ニ行ハルヘキノナリト云フハ恐クハ
未タ深ク土地割典ノ何タルヲ攻究セサルノ謬論
ナルナカラシヤ帝國憲法第一條ニ云ク

大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
ト今臺灣ハ清國ヨリ割典セラレテ我版圖トナ
リ帝國ノ一部分タルハ固ヨリ論ナシ然レモ我憲
法ニ所謂大日本帝國ハ我旧來固有ノ版圖ヲ
指称シタルコトハ又辨ヲ待タスレテ明ナリ唯我憲
法ハ其々教國ノ憲法ノ如ク疆土ノ經界ヲ規定

セム故ニ臺灣ノ我帝國トナルヤ我憲法施行ノ疆
域忽チ擴張シテ臺灣モ亦憲法施行ノ地トナルニ
至レリト思惟スルハ其理ナキニアラカルカ如シト雖是
レ唯帝國ノ一部タレハ則之ヲ統治スルモ亦固有ノ
帝國ト其方法ヲ同クセサルヘカラストスル單純ナ
ル想像ニ過キスシテ深ク土地割賦ノ果シテ何夕
ルヲ攻究シタル結果ニ出ツル確論ニアラカルナリ
然レモ此説ノ出ツル亦多少據ル所ナキニアラス西
洋ノ憲法學者中ニ於テモ此ノ如キノ議論ヲ唱道
スル者絶テ之レナキニ非ズ謂ク憲法ニ於テ疆土ヲ

規定セサル場合ニ於テ新ニ版圖ヲ加ヘタルトキハ
憲法ハ忽チ其新版圖ニ施及スヘシト是レ西洋
列國政體法制ヨリ風俗習慣ノ相同キ者ノ間ニ
於テハ此論或ハ以テ実行スルヲ得ヘカラスナルニ非サル
ヘシト雖モ果シテ之ヲ実行シタル事例アルヤ余
ノ嘗テ聞タル未ダ聞知セサル取ナリ而シテ彼東洋
及亞比利加諸國ニ對スルニ至テハ此論ノ實行
果シテ何處ニ在ルヤ佛國ノ憲法ハ疆土ノ經界ヲ
規定セカルハ我帝國憲法ト異ナル所ナレ然レモ
其「アルゼリイ」ヲ治ムルニ佛國憲法ヲ施行スルヤ

英國ノ憲法モ亦疆土ノ規定ヲ設ケス然レモ其憲
法ノ施行セラレハ英ノ蘭及愛爾蘭ヨリ成立スル
合成王國及其附近ノ島嶼ノ其ノ地球上各處
ニ散在スル領土ニ對シテハ其憲法施行スル者絶テ
之レアルヲ見ス然レハ則憲法ニ於テ疆土ノ經界ヲ
規定セカルトキハ新ニ領土^地ヲ加フル毎ニ其憲法ハ當
然其新領地ニ施行スヘキモノナリトノ説ハ未ダ以テ
確論トナスニ足ラカルナリ

憲法ノ新領地ニ當ルニ施行セラレヘシトノ論ノ正確
ナラカル是ノ如シ今理論ハ姑ク之ヲ置キ我國ガ臺

灣ヲ統治スル實際ニ就テ之ヲ察スルモ少しモ憲
法ノ當ルニ施行セラレハノ痕跡アルヲ見カルナリ

其臺灣ノ我敎國ニ歸セシヨリ外國條約ヨリ法律ニ
至ルマテ必ズ特ニ宣示ヲ待テ始テ之ヲ其臺灣ニ行
ヘリ外國條約ニ關シテハ明治二十八年五月十日臺
灣總督ニ先ツ回來ノ慣例ニ依テ各國交渉事
件ヲ措辦シ事ノ急ナルモノハ臨機專行スヘキコトヲ
訓令シ同年十二月ニ至リ臺灣平定シタルヲ以テ
各國ニ向テ宣言シテ云ク

其臺灣地方既ニ平定ニ歸シタルヲ以テ日本帝國

政府ノ同地ニ居住シ又同地ニ往來スル各締盟
國ノ臣民人民及船舶ニ向テ左記ノ特典便益ヲ
許典ス

第一條 日本帝國ト通商及航海ノ條約ヲ
締有スル各國ノ臣民及人民ハ淡水基隆安
平臺南府及打狗ニ於テ居住シ且商業ヲ
營ムコトヲ得又右等諸國ノ船舶ハ淡水基
隆安平及打狗ノ諸港ヘ寄港シ且積荷ヲ
輸出入スルコトヲ得

第二條 臺灣ニ其情形上特殊ナル所アリトモ

日本帝國ト各締盟國トノ間ニ現存スル通
商及航海條約稅則及其他ノ諸取極ニ出
來得ヘキ限臺灣ニ居住シ又同地ニ往
來スル各締盟國ノ臣民人民及船舶ニモ之
ヲ適用スヘシ但前記ノ特典便益ヲ享受ス
ル者ニ於テハ常ニ臺灣ニ於テ施行セラル所
ノ法令ヲ遵守スヘキモノトス

條約ハ法律ニ非カレ今之ヲ茲ニ援クハ適宜ナラサルカ如
シトモ其施行ノ疆域ニ就テハ法律ト其理ヲ一ニセ
カレハカラス臺灣新ニ我版圖ニ加ハリタルニ由リ憲

法ハ更ニ言明ヲ待タズ當然其臺灣ニ行ハルトノ論法ヲ以テ之ヲ推ストキハ條約ノ如キモ亦同ク然ラサルヲ得スレテ唯外國人ノ居住シ得ヘキ取處及其船舶ノ出入レテ貨物ヲ積卸シ得ヘキ各港ヲ指定セハ足レリ我カ條約ヲ其臺灣ニ往來スル各締盟國民ニ適用スヘキコトヲ宣言スルハ教習完ニ屬ス然ルニ必ズ之ヲ宣言スルヲ要スルハ條約ノ言明ヲ待タズシテ當然其臺灣ニ施行スヘキニアラサルカ故ニ非スヤ

法律ニ於テモ亦然リ別ニ言明ヲ待タズシテ當然其臺灣ニ施行スヘキモノナレハ明治二十九年法律第六十三号

ハ不適法ノ制定ナリト謂ハカルヲ得サルノ結果ヲ生スヘシ蓋シ憲法ハ其施行ノ疆域ヲ限畫セサルカ故ニ新領地ニ當然施行セララルヘントノ論法ヲ以テ推セハ我法律中其施行ノ疆域ヲ限畫セサルモノハ更ニ言明ヲ待タズ當然其臺灣ニ施行セラレサルヘカラス例ハハ普通刑法ノ如キ是ナリ然ルニ明治二十九年法律第六十三号ハ第五條ニ規定シテ云ク

現行ノ法律又ハ將來發布スル法律ニシテ其ノ全部又ハ一部ヲ其臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

是レ現行ノ法律及將來發布スル法律ハ當然臺灣ニ施行セラルヘキモノニアラスト断定シ而シテ其施行ヲ要スルモノハ更ニ言明シテ之ヲ施行スルコトヲ規定シタルモノナリ
當然施行セラルヘキモノナリトスルトキハ如何リ其全部又ハ一部ヲ施行スルヲ要スルモノト謂フコトヲ得ンヤ

普通刑法ノ如キハ他ノ法律ト同カラスレテ尤モ平等ニ施行セラルヲ要スルモノニシテ亦實際事情ノ特殊ナルニ拘ラス施行セラルヲ得ヘキモノナリ故ニ議者ノ説ニ從ヘハ普通刑法ハ第一ニ當然臺灣ニ施行

セラルヘキモノニ屬ス然ルニ二十九年法律第六十三号ヲ以テ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ定ムト規定シ當然施行セラレス必ス勅令ノ言明ヲ待テ始テ施行セラルヘシト為ス此他法律中刑法ト其類相似タル者極テ少カラサルモ皆一概ニ言明ヲ待タカレハ臺灣ニ施行セラレスト為ス若シ議者ノ説ヨリ之ヲ視レハ法律第六十三号第五條ノ規定ハ尤モ不適用ノ制定ナリト謂ハザラントスルモ得ヘケンヤ
然レモ法律ハ當然新領地ニ施行セラルモノニ非ズ之ヲ施行スルハ必ス言明ヲ待ツトノ主義ヨリ視レハ

法律第六十三條ノ規定ハ實ニ至當ノ制定トス是レ
果シテ至當ナルハ我帝國憲法モ言明ヲ待タサレハ
吉屋灣ニ施行スヘキニアラカルハ亦同一ノ論法ヲ以テ之ヲ
推斷スヘキコトヲ得ヘキナリ

抑獨逸ノ如キ荷蘭ノ如キ白耳義ノ如キハ憲法ニ於
テ邦土ノ疆域ハ法律ヲ以テ之ヲ変更スルヲ得ヘキコ
トヲ規定セリ又米國憲法ニ於テハ新聯邦ノ加盟及
領地ノ處分ハ合衆國議會ノ權内ニ在リト規定セリ
我憲法ニ於テハ全ク此規定ヲ闕如ス是レ果シテ新
ニ領地ヲ加フルトキハ必ス之ニ對シテ當ル憲法ヲ施

行セントスルノ意ニ出ツルト推斷スルコトヲ得ヘキカ若シ
是ノ如クナルトキハ南洋ノ蠻島南米ノ蠻國ノ如
キ將來之ヲ我^ハ獲得スルコトアレハ之ニ向テ憲法
ヲ施行スルヲ拒ムコトヲ得ス若シ我憲法ノ意志
果シテ是ノ如クナリトスレハ寧ロ無能者ノ甚シキモノ
ト謂ハカルヲ得ンヤ顧フニ我憲法ノ領地處分ニ關
スル規定ヲ闕如スルハ苟リ其事アルニ臨テ審議熟
察シテ以テ其宜ヲ制セントスルニ出ツルニアラカルヲ知
ラシヤ若シ其意果シテ茲ニ在ラハ則唯其之ヲ
闕如スルヲ視ルノミニシテ而シテ深ク情形ノ如何事

理ノ當否ヲ講究セス直ニ新領地ニ當ル憲法ヲ
施行スヘシト推論スルハ寧ロ妄断ト謂ハルヲ得ス况
ンヤ法律ハ既ニ勅令ヲ以テ言明スルニアラサレハ之ヲ施
行セカレトトテ規定シ獨リ憲法ニ至テハ不言ノ間ニ
於テ當然施行セラルヘシト為ス寧ロ是ノ如キノ理
アラシヤ要スルニ憲法モ亦法律ナリ既ニ法律ノ施行
ニ関シテ言明ヲ需セハ憲法モ亦之ヲ施行スルニ言明
ヲ要スルハ尤モ睹易キノ理ニ非スヤ

上乗論スル所ヲ以テ推セハ憲法未タ臺灣ニ施行
セラレストスルノ適當ナルヲ認メサルヲ得ス然レモ統治

ノ主體ハ憲法ノ條規ニ依リテ統治ノ大權ヲ行
フヘキ(憲法第四條)ヲ以テ臺灣ヲ統治スルモ亦
大權ノ行働ハ憲法ニ依ラサルヲ得ズ而シテ在臺
灣ノ臣民ハ唯統治ノ大權ニ服従スルノ義務アル
ニ未タ憲法ノ條規ニ依リテ其位置ヲ保障セラル
ニ至ラサルナリ蓋シ統治ノ容體タル在臺灣臣民
ハ未タ憲法範圍ノ内ニ入レラレトモ統治ノ主
體ハ一アリテニアルヘカラス而シテ臺灣統治ノ主權
ハ清國ノ割拠ニ由リテ我憲法範圍内ノ統治
主體ニ歸シタルヲ以テ臺灣ヲ統治スルノ大權モ

憲法第四條、規定ノ外ニ在ルヲ得サルナリ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "憲法" and "規定".

